

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	現代の国語	グループ名	C学習グループ	年間授業時数	72 単位時間
年間指導目標	(知)言語活動を通して、基本的な国語の知識や技能を身に付ける。				
	(思)論理的に考える力や他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。				
	(学)言葉を通して他者や社会と関わろうとする態度を養う。				
	※ (知) 知識及び技能 (思) 思考力、判断力、表現力等 (学) 学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:長岡優花				
使用教科書	高等学校 新編現代の国語(第一学習社)				

期	月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点） (知) 知識・技能 (思) 思考力・判断力・表現力 (主) 主体的に学習に取り組む態度
一 学 期	4	理解編 「未知」はいくらでもある	6	○「未知」と「既知」の関係についての考え方を理解する。 ◆筆者の主張と論の展開を捉え、「未知」に対する見方や考え方を理解するとともに、自分の学びや生活と結び付けて考える。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 内容や構成、論理の展開を理解し、自分の考えを深める。 (主) 自分の考えを表現し、相互理解をする力を身に付ける。
	5	表現編 話し方の工夫 待遇表現 論理的な表現	8	○相手や場面に応じた話し方を理解する。 ○分かりやすく伝えるための工夫を考える。 ◆相手や目的に応じて話し方を工夫し、分かりやすく自分の考えを伝える。	(知) 話し言葉と書き言葉の特徴を理解する。 (思) 相手の立場や場面に応じたコミュニケーションをする。 (主) 相手により伝わりやすい表現を自ら考えることができる。
	6	理解編 言語としての ピクトグラム	9	○文字言語との違いを読み取り、ピクトグラムを考案・表現する。 ◆ピクトグラムの役割や特徴を理解し、情報を分かりやすく伝える方法について考えるとともに、表現に生かす。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 文章の内容や解釈を判断し、自分の考えを論述することができる。 (主) 自分の考えを表現し、相互理解をする力を身に付ける。
	7	表現編 情報の探索と選択 情報源の明示 スピーチで自分を伝える	4	○キーワードを用いた検索の仕方を理解する。 ○複数の情報の比較・整理の仕方を理解する。 ◆目的に応じて必要な情報を探し出し、適切に選択・整理する。	(知) 情報の信頼性や妥当性の吟味の仕方を理解する。 (思) 自分の意見を分かりやすく伝えるスピーチの方法を実践することができる。 (主) 自ら自分の考えを表現し、他者と相互理解を図ろうとする。
二 学 期	9	理解編 臆病な詩人、 街へ出る	7	○詩に描かれた情景や心情を読み取る。 ○音読・朗読を通じた表現の工夫をする。 ◆詩の表現や描かれた情景・心情を読み取り、ことばの働きや表現のよさを味わう。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 文章の内容を基に、自分の考えを論述したり発表したりすることができる。 (主) 文章の内容から、自分自身について考えを広げることができる。
	10 前半	表現編 理想の修学旅行をプレゼンする	4	○必要な情報の収集と整理の仕方を理解する。 ○プレゼンテーションの構成を理解する。 ◆目的に応じて情報を収集・整理し、自分の考えを分かりやすく構成して、相手に伝わるように表現する。	(知) 効果的なスライドの作り方を理解する。 (思) 情報を聞き手に分かりやすく説明する方法を理解し、実践する。 (主) 聞き手のことを配慮した内容を自ら考える。

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	表現編 理想の修学旅行をプレゼンする	4	○必要な情報の収集と整理の仕方を理解する。 ○プレゼンテーションの構成を理解する。 ◆目的に応じて情報を収集・整理し、自分の考えを分かりやすく構成して、相手に伝わるように表現する。	(知) 効果的なスライドの作り方を理解する。 (思) 情報を聞き手に分かりやすく説明する方法を理解し、実践する。 (主) 聞き手のことを配慮した内容を自ら考える。
	11	表現編 相手に伝わる案内をする	7	○相手に配慮した言葉遣いを工夫する。 ○相手の反応を見ながら伝え方を調整する。 ◆相手や目的に応じて必要な情報を整理し、分かりやすく伝える。	(知) 目的に沿って的確に案内する方法を理解する。 (思) 相手や場の状況を押さえて案内することができる。 (主) 相手に伝わる案内の工夫について考えることができる。
	12	理解編 人はなぜ仕事をするのか	7	○根拠に基づいた説明や具体例を読み取り、自分の将来や生活と関連付けて考える。 ◆筆者の主張とその根拠を捉え、仕事の意義について多面的に理解するとともに、自分の考えをもつ。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 各段落の構成から、筆者の主張を読み取ることができる。 (主) 自分の意見について、筆者の主張と併せて考えることができる。
三 学 期	1	書道 書初め	6	○書道で表現をしよう ◆自分の感じたことを、相手や目的に応じて表現する。 ◆言葉や表現方法の違いを理解する。	(知) 書の表現方法や形式などについて知識を深める。 (思) 自分の思いを筆にのせて表現することができる。 (主) 書道作品を鑑賞し、伝統や文化の価値を味わうことができる。
	2	理解編 イースター島になぜ森がないのか	6	○働くことの目的や価値を多面的な捉え、自分の将来や生活と関連付けて考える。 ◆筆者の主張とその根拠を捉え、仕事の意義について多面的に理解するとともに、自分の考えをもつ。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 内容や構成、展開を的確に捉え、論点を明確に捉える。 (主) 筆者の主張に対する、問題解決を考えることができる。
	3	理解編 「材料科学」のゆくえ	6	○科学技術の発展が社会に与える影響を読み取り、具体例を通じた説明の仕方や論の展開の理解する。 ◆筆者の主張や根拠を捉えながら、科学技術の在り方について自分の考えを深める。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 各段落がどのような関係性を持って展開しているかを考えることができる。 (主) 筆者の主張について、自分のことと結び付けて考えることができる。
そ の 他	通年		音読、新出語句、漢字		
指導の工夫 学習時の配慮事項等			<ul style="list-style-type: none"> ・主題を導き出すキーワードを見つける。 ・筆者の作品(絵)を紹介し、内容理解の助けとする。 ・音読の繰り返しを行い、内容理解を図る。 ・ワークシートを活用し、読解を深める。 ・文体や修辞などの表現上の特色について丁寧に指導する。 		

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	言語文化	グループ名	C学習グループ	年間授業時数	72 単位時間
年間指導目標	(知)社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 (思)論理的に考える力や他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 (学)言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 ※ (知) 知識及び技能 (思) 思考力、判断力、表現力等 (学) 学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:松島理絵				
使用教科書	高等学校 新編言語文化(第一学習社)				

期	月	単元（題材）名	指導 時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点）	
					(知) 知識・技能	(思) 思考力・判断力・表現力 に学習に取り組む態度 (主) 主体的
一 学 期	4	近現代 よろこびの歌	6	○音読、新出語句、漢字、読解 ◆「私」の心情の動きを読み取る。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 登場人物の心情の変化を読み取ることができる。 (主) 叙述された心情を捉え、学習課題に沿って、異なる視点から考えようとしている。	
	5	近現代 小景異情 六月	10	○音読、漢字、文法、表現技法、読解 ◆近代詩の鑑賞の仕方を理解し、作品に示された作者の思いを読み取る。 ◆散文詩に親しみ、イメージを読み取る。	(知) 文語で書かれた詩のリズムや表記の特徴を理解する。 (思) 作品に表れているものの見方や考え方を捉える。 (主) 表現の仕方や構成を吟味し、作者の思いを読み取ろうとする。	
	6	古文 古文の学習 鳩と蟻のこと 一休ばなし	6	○音読、古文文法、表現技法、読解 ◆歴史的仮名遣いと古語に慣れて古文文法を理解する。 ◆話の展開と内容を理解する。	(知) 古文の文法や歴史的仮名遣いなどのきまりを理解する。 (思) 文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 (主) 粘り強く口語訳と対照して説話の内容を捉え、学習課題に沿って自分の考えを伝えている。	
	7	古文 児のそら寝 なよ竹のかぐや姫 伊勢物語	3	○音読、古文文法、表現技法、読解 ◆古文特有の仮名遣いと言葉に慣れて、古文文法を理解する。 ◆話の展開と内容を理解する。	(知) 古今異義語や用語の活用について、理解を深める。 (思) 作品に表れているものの見方や考え方を捉えて内容を読み取る。 (主) 現代に通じる人間のありようを味わいながら、古文への親しみを深める。	
二 学 期	9	漢文 訓読に親しむ 五十歩百歩 矛盾	5	○音読、句法、表現技法、読解 ◆返り点や再読文字の種類、助字のはたらきなどの基礎知識を身に付ける。 ◆我が国と外国の文化との関係について理解する。	(知) 漢文を訓読するための、基礎的な事項を理解する。 (思) 文章の種類を踏まえて、たとえ話を読み解き、内容を的確に捉える。 (主) 古典の言葉と現代の言葉とのつながりを味わう。	
	10 前半	漢文 唐詩の世界 春暁	5	○音読、句法、表現技法、読解 ◆返り点や再読文字の種類、助字のはたらきなどの基礎知識を身に付ける。 ◆古代中国の人々の思いを、詩からを読み取る。	(知) 漢詩のきまりや、作品の歴史的背景を理解する。 (思) 漢詩を鑑賞し、人への思いがどのように表現されているのかを読み取る。 (主) 粘り強く漢詩を読み比べ、読まれた情景を自ら説明することができる。	

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	漢文 唐詩の世界 春暁	5	○音読、句法、表現技法、読解 ◆返り点や再読文字の種類、助字のはたらきなどの基礎知識を身に付ける。 ◆古代中国の人々の思いを、詩からを読み取る。	(知) 漢詩のきまりや、作品の歴史的背景を理解する。 (思) 漢詩を鑑賞し、人への思いがどのように表現されているのかを読み取る。 (主) 粘り強く漢詩を読み比べ、読まれた情景を自ら説明することができる。
	11	漢文 静夜思 両頭蛇	8	○音読、句法、表現技法、読解 ◆返り点や再読文字の種類、助字のはたらきなどの基礎知識を身に付ける。 ◆古代中国の人々の思いを、詩からを読み取る。	(知) 訓読のきまりを理解し、活用することができる。 (思) 散文作品に触れて、文章中に示された教えを読み取る。 (主) 粘り強く漢詩を読み比べ、読まれた情景を自ら説明することができる。
	12	古文 枕草子・和歌	6	○音読、古文文法、表現技法、読解 ◆話の展開と内容を理解する。	(知) 助動詞などの文法や、和歌の表現技法について理解を深める。 (思) 随筆という文章の種類を踏まえて、内容を読み取る。 (主) 作品に表れているものの見方や考え方を自分なりに捉える。
二 学 期	1	近現代 羅生門	7	○音読、新出語句、漢字、読解 ◆登場人物の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、物語全体の構成を読み取る。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 登場人物の行動や心理をもとに場面の展開を捉える。 (主) 作者の表現の工夫について、自分なりに考えることができる。
	2	近現代 よだかの星 鏡	7	○音読、新出語句、漢字、読解 ◆登場人物の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、物語全体の構成を読み取る。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 登場人物の置かれた状況から生じる心理や行動を読み取る。 (主) 作品の寓意を積極的に理解し、自分の考えにつなげる。
	3	近現代 よだかの星 鏡	4	○音読、新出語句、漢字、読解 ◆登場人物の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、物語全体の構成を読み取る。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 登場人物の置かれた状況から生じる心理や行動を読み取る。 (主) 作品の寓意を積極的に理解し、自分の考えにつなげる。
指導の工夫 学習時の配慮事項等			<ul style="list-style-type: none"> ・主題を導き出すキーワードを見つける。 ・筆者の作品（絵）を紹介し、内容理解の助けとする。 ・音読の繰り返しを行い、内容理解を図る。 ・ワークシートを活用し、読解を深める。 ・文体や修辞などの表現上の特色について丁寧に指導する。 		

令和 年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	地理総合	グループ名	C学習グループ	年間授業時数	70 単位時間
年間指導目標	(知)世界の生活文化の多様性を学び、国際理解を深める。				
	(思)地理的事象を学ぶ中で、持続可能な世界についての考えを深める。				
	(学)世界地理を学ぶことで、日常のニュースの背景を考える。				
	※ (知) 知識及び技能 (思) 思考力、判断力、表現力等 (学) 学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員: 木下徹				
使用教科書	高等学校 地理総合 世界を学び地域をつくる(第一学習社)				

期	月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点）		
					(知) 知識・技能	(思) 思考力・判断力・表現力 習に取り組む態度	(主) 主体的に学
一 学 期	4	地図や地理情報システムと現代社会	6	○世界の時差、地球上の位置 ◆様々な図法の地図の特徴や使い方を理解し、目的に合った地図を選び活用する力を養う。	(知) 様々な図法によって描かれた地図の特徴や目的に応じて使い分けられていることについて理解している。 表現方法や縮尺、主題に注目しながら目的に応じてどの地図の利用が適しているのかについて多面的・多角的に考察し表現している。	(思) 目的に応じた地図の利用の仕方について主体的に追求し課題を見出している。	(主) 世界を構成する国家の領域の定め方、地図を通して世界の国々の結びつき方、交通、通信、人の移動の特徴を理解している。
	5	国家の結びつきとグローバル化する社会	6	○国家の形成要因、ASEAN、EU等国家連合の役割 ◆地域統合の例として、ASEANやEUの仕組みと役割について知る。	(知) 国家の領域はどのように定められておりどのような領土問題があるのかや、世界の国々はどのように結びついておりどのような交通、通信人の移動の特徴があるのかについて地図を通して多面的・多角的に考察し表現している。	(思) 国家の領域の定め方や領土問題、世界の国々の結びつき方、交通、通信、人の移動の特徴について地図を通して主体的に追求し課題を見出している。	(主) 世界の様々な生活文化が自然環境や社会環境を背景に互いに影響を及ぼしあいながら形成されてきたことを理解している。
	6	生活文化の多様性と国際理解①	10	○世界の食文化、料理について、世界の衣食住と文化 ◆世界の多様な食文化や生活様式を知り、その背景に関心をもつ。	(思) 自然環境と生活文化の関連を説明できる。	(主) 異文化について知り、他者を尊重するとともに、その背景に関心をもとうとしている。	
	7	生活文化の多様性と国際理解②	4	○地域の要因と文化の結びつきを理解する ◆世界の食文化や衣食住の特色が、自然環境や社会環境と関わって形成されていることを理解する。			
二 学 期	9	持続可能な社会を目指して	6	○SDGs(持続可能な開発目標)について ◆SDGsと関連付け、地球規模課題と相互関係を多面的に考察し表現する。	(知) 地球的課題が生じている場所や要因課題同士が相互に関係しあっていることを見出すための地理的見方・考え方を身に付けている。	(思) 地球的課題がどこでどのように生じているのかや、解決のためにどのような取り組みがなされているのかについて多面的・多角的に考察し、表現しようとしている。	(主) 持続可能な開発を実現するために必要な取り組みや国際協力の在り方について主体的に追求し課題を見出している。
	10 前半	すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて	7	○貧困問題、人口問題、水問題等 ○国連の人権条約について ◆貧困・人口・水問題などの地球規模課題を通して、人間の尊厳と平等の重要性を考える。			

期	月	単元(題材)名		○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点)
一学期	10後半	すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて	7	○人権について考える ◆国連の人権条約の意義を理解し、誰もが尊厳と平等が守られる社会について考察する。	(知)どのような地球規模課題があり課題同士がどのように関係しているのかについて理解している。 (思)社会課題の原因や影響を比較し、説明できる。 (主)人権を尊重し、平等な社会の実現に向けて考えようとしている。
	11	自然と調和した豊かな社会について	6	○技術革新と持続可能な産業化、資源・エネルギー問題等 ◆技術革新と資源・エネルギー問題を関連付け、持続可能な産業を考える。	(思)SDGsに照らしながら、地球規模課題や課題同士の関係性について多角的・多面的に考察し表現しようとしている。 (主)地球規模の課題に対するSDGsの達成に向けて、主体的に追求し課題を見出している。
	12	現役世代と将来世代のための地球	7	○限りある資源の活用方法を考える ○地球温暖化について、陸地の環境問題、海洋の環境問題 ◆資源枯渇の問題、環境問題について課題を見出す。	(知)温暖化に関する資料を読み取り、その影響を理解することができる。 (思)環境問題の原因と対策を説明できる。 (主)環境問題に関心を持ち、行動する姿勢を示そうとしている。
三学期	1	平和で公正な社会に向けて	5	○世界の民族問題、様々な紛争、移民難民問題 ◆民族問題や紛争、移民難民問題から平和で公正な社会の在り方を考える。	(知)紛争や国際協力について、基本的な内容を理解することができる。 (思)平和な社会をつくるための取り組みについて説明できる。 (主)国際協力の重要性を理解し、平和の実現に向けて主体的に考えようとしている。
	2	自然環境と防災①	7	○地球規模で見る地球の姿と自然災害 ○人々の暮らしを取り巻く自然環境 ◆自然環境と自然災害の関係を理解し、人々の暮らしとの関わりについて考える。	(知)自然災害が生じる場所と要因、日本の自然災害の特徴、生活の中にみられる防災・減災の取り組みを理解している。 (思)どのような自然災害がどのような場所で生じるのかや、日本の自然災害にはどのような特徴があるのか、どのような防災・減災への取り組みがなされているのかについて多角的・多面的に考察し表現している。 (主)自然環境には災害と恩恵の両側面があり、人々が生活していく上で必要な防災・減災に向けた備えについて主体的に追求し、課題を見出している。
	3	自然環境と防災②	7	○災害の起こる地理的な要因について理解する ◆自然災害の発生場所やその要因、防災・減災の取り組みを、地理的視点から理解する。	
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> 生徒が学習に興味・関心がもてるように、日々のニュース等での出来事を取り上げながら指導する。 必要に応じて地図帳や資料を確認しながら、生徒が自ら感じ取りながら学習できるようにする。 生徒の生活実感につなげながら、世界の様々な人々の暮らしを想像できるようにする。 できる限り最新の情報を提示して、日々の学習とつなげて生徒自身が考えることができるようにする。 	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学部	高等部	学年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	数学 I	グループ名	C学習グループ	年間授業時数	105 単位時間
年間指導目標	(知)数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (思)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 (学)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
	※ (知) 知識及び技能 (思) 思考力、判断力、表現力等 (学) 学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:城戸口直久、橋本良夫				
使用教科書	新編数学 I Flex(実教出版)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点)			
					(知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度			
一学期	4	数と式	51	○式の計算 ・整式とその加法・減法 ・整式の乗法 ・因数分解 ○実数 ・実数 ・根号を含む式の計算 ○1次不等式 ・不等号と不等式 ・不等式の性質 ・1次不等式 ◆因数分解の方法を用いて、整式を積の形に表す。 ◆不等式の性質を用いて1次不等式を解き、その解の範囲を表す。	(知)数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすることができる。集合と命題に関する基本的な概念を理解することができる。2次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深める。不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1次不等式の解を求めることができる。 (思)集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明することができる。問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察すること、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、1次不等式を問題解決に活用することができる。 (主)学習内容に関心をもって取り組み、課題を主体的に追究しようとしている。			
	5					データの分析	○データの整理 ・度数分布 ・代表地 ・四分位数と四分位範囲 ○データの分析 ・分散と標準偏差 ・データの相関 ・データの外れ値 ・仮説検定の考え方 ◆データを表やグラフで表し、代表値や散布図を用いて特徴を考察する。 ◆度数分布表やヒストグラムを用いてデータを表現し、その特徴を読み取る。	(知)分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその使い方理解することができる。コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。具体的な事象において仮説検定の考え方を理解することができる。 (思)データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。 (主)学習内容に関心をもって取り組み、課題を主体的に追究しようとしている。
	6							
二学期	7	データの分析	51	○データの整理 ・度数分布 ・代表地 ・四分位数と四分位範囲 ○データの分析 ・分散と標準偏差 ・データの相関 ・データの外れ値 ・仮説検定の考え方 ◆データを表やグラフで表し、代表値や散布図を用いて特徴を考察する。 ◆度数分布表やヒストグラムを用いてデータを表現し、その特徴を読み取る。	(知)分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその使い方理解することができる。コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。具体的な事象において仮説検定の考え方を理解することができる。 (思)データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。 (主)学習内容に関心をもって取り組み、課題を主体的に追究しようとしている。			
	9							
	10前半							

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	2次関数 図形と計量	54	○2次関数とそのグラフ ・関数とグラフ ・2次関数のグラフ ・2次関数の最大・最小 ・2次関数の決定 ○2次方程式と2次不等式 ・2次関数のグラフと2次方程式 ・2次関数のグラフと2次不等式 ◆関数の関係を理解し、式やグラフで表し、変化の様子を捉える力を育てる。 ◆2次関数のグラフの変化や特徴を理解し、2次不等式を用いて数量の範囲や条件を捉える力を育てる。	(思)2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することができる。2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。(主)学習内容に関心をもって取り組み、課題を主体的に追究しようとしている。
	11				
	12				
三 学 期	1	○三角比 ・三角比 ・三角比の性質 ・三角比の拡張 ○三角比と図形の軽量 ・正弦定理 ・余弦定理 ・三角形の面積 ・空間図形の計量 ◆三角比の意味を理解し、長さや角の関係を捉える力を育てる。 ◆正弦定理、余弦定理を用いて、一般の三角形における辺と角の関係を求める。 ◆三角比を用いた面積公式を活用し、図形の計量や問題解決に用いる。		(知)鋭角の三角比の意味と相互関係について理解することができる。三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解することができる。正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 (思)図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導くことができる。図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。(主)学習内容に関心をもって取り組み、課題を主体的に追究しようとしている。	
	2				
	3				
指導の工夫 学習時の配慮事項等			<ul style="list-style-type: none"> ・負の数の計算、分数・少数の計算など、生徒の実態に応じて年度初めに基礎的な計算の復習をする。 ・単元のはじめに、ポイントを整理して、既習内容の振り返りをする。 ・生徒個々の実態に応じて、時間配分を調整する。 		

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	数学A	グループ名	C学習グループ	年間授業時数	70 単位時間
年間指導目標	(知)図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (思)図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見出し、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見出し、数理的に考察する力を養う。 (学)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
	※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:城戸口直久				
使用教科書	新編数学A(実教出版)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点) (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	場合の数と確率	25	○場合の数 ・集合と要素 ・集合の要素の個数 ・場合の数 ・順列 ・組合せ ○確率 ・事象の確立 ・確率の基本性質 ・独立な試行とその確率 ・条件付確率 ・期待値 ◆集合の意味や表し方を理解し、要素との関係や集合間の関係を図や記号を用いて捉える力を育てる。 ◆確率の意味や性質を理解し、事象の起こりやすさを判断する力を育てる。	(知)三角形に関する基本的な性質について理解することができる。円に関する基本的な性質について理解することができる。空間図形に関する基本的な性質について理解することができる。 (思)図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見出し、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。 (主)学習内容に関心をもって取り組み、課題を主体的に追究しようとしている。
	5				
	6				
	7				
二学期	9	図形の性質	25	○三角形の性質 ・三角形の線分の比 ・三角形の重心・内心・外心 ・メネラウスの定理とチェバの定理 ○円の性質 ・円に内接する四角形 ・円の接線と弦のつくる角 ・方べきの定理 ・2つの円 ○作図 ・作図 ◆三角形の重心・内心・外心の特徴を理解し、それらの位置関係や性質を図を用いて捉える力を育てる。 ◆円と直線の関係に着目し、図や作図を通して長さの関係を視覚的に理解し、性質を捉えられるようにする。	(知)集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解することができる。具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。 (思)空間図形の位置関係や構造を分析し、図や式を用いて立体の特徴や関係を説明することができる。 (主)図形の関係や証明の意味を自ら考えて、理解を深めようとしている。
	10前半				

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半			○空間図形 ・空間における直線と平面 ・多面体 ◆多面体の構成や性質を理解し、図形の特徴を捉える力を育てる。	(知) 立体の構造や性質を理解することができる。 (思) 事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。 (主) 空間図形の構造や立体の見え方に関心を持ち、自ら図を描いたり、モデルを用いたりして理解を深めようとしている。
	11				
	12				
三 学 期	1	数学と人間の活動	20	○数と人間の活動 ・数の歴史と記数法 ・n進法 ・約数と倍数 ・最大公約数と最小公倍数 ・整数の割り算と商および余り ・ユークリッドの互除法 ・不定方程式 ○図形と人間の活動 ・相似を利用した測量 ・三平方の定理の利用 ・座標の考え方 ○遊びの中の数学 ・パズルとゲームの数学 ◆約数や倍数の関係に基づいて整数の性質を捉え、数の構成や関係について考察する力を養う ◆三平方の定理の利用方法を理解し、直角三角形の辺の関係に着目して長さを求める力を育てる。	(知) 数量や図形に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解することができる。数学史的な話題、数理的なゲームやパズルなどを通して、数学と文化との関わりについての理解を深めることができる。 (思) 数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。パズルなどに数学的な要素を見だし、目的に応じて数学を活用して考察することができる。 (主) 数が生活や社会の中で果たす役割に関心を持ち、理解を深めようとしている。
	2				
	3				
指導の工夫 学習時の配慮事項等				・分数・小数の計算など、生徒の実態に応じて年度初めに基礎的な計算の復習をする。 ・単元のはじめに、ポイントを整理して、既習内容の振り返りをする。 ・生徒個々の実態に応じて、時間配分を調整する。 ・立体模型やICT教材を用いて、立体のイメージができるようにする。	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	科学と人間生活	グループ名	C学習グループ	年間授業時数	71 単位時間
年間指導目標	(知)自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術と人間生活とのかかわりについて理解する。 (思)見通しをもって観察・調査などを行うとともに、ものごとを実証的・論理的に考察したり分析したりすることにより、総合的に判断し、それを表現することができる。 (学)自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。 ※ (知) 知識及び技能 (思) 思考力、判断力、表現力等 (学) 学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:熊谷賢二				
使用教科書	科学と人間生活新訂版「実教出版」				

期	月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点）
					(知) 知識・技能 (思) 思考力・判断力・表現力 (主) 主体的に学習に取り組む態度
一 学 期	4	科学と技術の発展	5	○科学と技術の始まり ○海、土 ◆科学文明の歴史や発展に興味・関心をもてる。 ◆身の回りの事象や自然界について理解を深める。	(知) 海洋についての研究・開発の概要を理解し、日本における海洋研究の意義や役割を考察することができる。 (思) 科学と技術の発展に際し観察・実験の果たした役割についてまとめることができる。 (主) 人間生活を支える技術が科学とどのように関わり合って発展してきたか、意欲的に学習しようとする
	5	「物質の科学」 【化学分野】 材料とその再利用	6	○生活の中のさまざまな物質 ○金属 ◆身の回りの物質がどのように成り立っているかを理解する。	(知)・原子の構造、化学結合について理解しており、物質の性質と関係していることを理解している。 (思) 天然にある素材と人工的に作り出した素材が日常生活でどのように使われているかを考え、表現することができる。 (主) 金属・プラスチック・セラミックスが、どのような性質が製品として利用されているか意欲的に学習しようとする。
	6	「物質の科学」 【化学分野】 材料とその再利用	10	○プラスチック ○セラミックス ◆プラスチック・セラミックの性質や特徴について知る。	(知) 身の回りの金属・プラスチック・セラミックスについてその製造法や資源の再利用について理解している。 (思) 材料がどのような役割を果たしているか学習を通して総合的に判断し、表現することができる。 (主) 金属・プラスチック・セラミックスのどのような性質が製品として利用されているか意欲的に学習しようとする。
	7	「生命の科学」 【生物分野】 ヒトの生命現象	4	○ヒトの生命現象とDNA ◆生命現象と生活との関連付けさせ、DNAの構造や働きについて理解する。	(知) DNAの塩基配列によって作られるたんぱく質のアミノ酸配列が決まることを理解している。 (思) 血糖濃度やホルモンの変化のグラフを読み取り、ホルモンによる血糖濃度の調節について考察することができる。 (主) 人の生命現象や役割について関心を持ち、意欲的に学習しようとする。
二 学 期	9	「生命の科学」 【生物分野】 ヒトの生命現象	6	○抗体による生体防御のしくみ ◆抗体による免疫のシステムについて知り、予防摂取に関連付けて理解する。	(知) 予防接種の意義を説明することができる (思) 眼の構造と働きについて理解しており、観察・実験の結果や考察を自分の言葉で表現することができる。 (主) 抗体・視覚と人間生活の関わりについて関心を持ち、意欲的に学習しようとする
	10 前半	「光や熱の科学」 【物理分野】 光の性質とその利用	4	○光の進み方 ◆光の直線性について、観察を通して学習し理解する。	(知) 光が波であることを、回折や干渉など波の性質を持つことから理解し、身の回りの現象として見出せる。 (思) 身の回りに光の現象を見出し、波の性質を使いそれらを科学的に分析して、総合的に判断することができる。 (主) 自然界に見られる光の現象に関心を持ち、意欲的に調べようとする。

期	月	単元(題材)名	指導 時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点)
二期 期	10 後半	「光や熱の科学」 【物理分野】 光の性質とその利用	4	○光の進み方 ◆光を使っているいろいろな物を見ることができ、光に関わる技術進歩による利用法について理解を深める。	(知)光が波であることを、回折や干渉など波の性質を持つことから理解し、身の回りの現象として見出せる。 (思)身の回りに光の現象を見出し、波の性質を使いそれらを科学的に分析して、総合的に判断することができる。 (主)自然界に見られる光の現象に関心をもち、意欲的に調べようとする。
	11	「光や熱の科学」 【物理分野】 光の性質とその利用	7	○波としての光 ○電磁波の利用 ◆回折と干渉について、実験から理解し光が波であることを知る。	(知)電磁波が波長によって分類し、光もその一つであること、電磁波が日常生活で利用されていることを理解できる。 (思)スペクトルなどによる電磁波の分類に関する観察・実験の方法・技能を習得し、結果や考察を的確に伝えることができる。 (主)電磁波の科学技術が生活とどのような関係を持つかに関心をもち、科学的な見方・考え方を身に付けようとする。
	12	宇宙や地球の科学 【地学分野】 太陽と地球	7	○太陽系の天体と人間生活 ◆太陽の天球上の運行や月の満ち欠けの周期性が時や暦など人間生活に深く関わっていることを学習させる。	(知)地球を含む太陽系の天体の広がりや構造を知り、地球の特質を理解できる。 (思)地球が生命の存在できる環境であることを、太陽系の広がりや構造などから総合的に判断して考察ができる。 (主)太陽や月などの身近な天体と太陽系における地球について関心をもち、意欲的に調べようとする。
三期 期	1	宇宙や地球の科学 【地学分野】 太陽と地球	5	○潮汐と人間生活 ◆潮汐と月齢に関する資料をもとに、太陽、月、地球の位置関係の変化や地球の自転が潮汐にかかわっていることを理解させる。	(知)太陽の放射エネルギーが生命の星としての地球の環境に影響していることを理解している。 (思)潮汐に関する写真やグラフから、潮汐の周期性などを読み取り、表現することができる。 (主)太陽が地球に及ぼす影響や構造について関心をもち、地球の科学的な見方・考え方を身に付けようとする。
	2	宇宙や地球の科学 【地学分野】 太陽と地球	7	○大気・海水の循環と日本の気候 ◆太陽の放射エネルギーが地球の大気や海水など、人間生活に影響を及ぼしていることに触れる。	(知)日本の気象の概要を理解するとともに、発生しやすい気象災害について、現象や危険性を説明できる。 (思)地球が生命の存在できる環境であることを太陽の放射エネルギーなどから総合的に判断して考察できる。 (主)太陽や月などの身近な天体と太陽系における地球について関心をもち、意欲的に調べようとする。
	3	これからの科学と人間生活 【まとめ】	6	○リサイクルによる省エネルギーの検証 ◆科学技術の成果と今後の課題について考察し、科学技術と人間生活との関わりについて探究させる。	(知)課題研究から明らかにされた結果や関連する事項が理解できる (思)課題の研究を通して今後の科学研究や人間生活のあり方について考え、それを表現することができる。 (主)科学と人間生活の間に現在生まれている新しい課題に関心をもち、具体例を考えようとする。
指導の工夫 学習時の配慮事項等			<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活での具体的な関連事項例に多く触れ、「科学」と「人間生活」がより密接な関係であることを理解できるようにする。 ・ICT機器を活用し、科学的事象のイメージをもちやすくする。 		

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	体育	グループ名	C学習グループ	年間授業時数	71 単位時間
年間指導目標	(知)心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動について理解し、高度な知識や技能を深める。				
	(思)運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育む。				
	(学)健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。				
	※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:新田真、松木克美				
使用教科書	最新高等保健体育(大修館書店)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点)
					(知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	「体づくり運動」	4	○体ほぐし運動 ◆様々な運動に親しみながら、全身をバランスよく動かし、体力の向上と運動習慣の形成を図る。	(知) 身体の各部位を意識して動かそうとしている。 (思) リズムやタイミングを工夫しながら身体を動かそうとしている。 (主) 友達と協力しながら運動することができる。
	5	「陸上」	6	○投てき ◆投げる動きに親しみ、適切な力加減や方向を意識して投てきする力を養う。	(知) ルールを理解して走競技や投てき競技へ参加することができる。 (思) 自己の課題を見つけ、解決へ向けて工夫することができる。 (主) 記録の向上をめざし主体的に運動へ参加することができる。
	6	「陸上」	6	○投てき ◆投げる動きに親しみ、適切な力加減や方向を意識して投てきする力を養う。	(知) ルールを理解して走競技や投てき競技へ参加することができる。 (思) 自己の課題を見つけ、解決へ向けて工夫することができる。 (主) 記録の向上をめざし主体的に運動へ参加することができる。
	7	「水泳」	4	○水中でのリラクゼーション、呼吸法、泳法の基礎 ◆水中でのリラクゼーションや呼吸法、泳法の基礎に親しみ、水に慣れながら心身の緊張を和らげ、安全に活動する力を養う。	(知) 水中で力を抜いて浮くことができる。 (思) 水中での力の抜き方や呼吸法について知ることができる。 (主) 泳法を理解して泳ぐことができる。
二学期	9	「水泳」	8	○水中でのリラクゼーション、呼吸法、泳法の基礎 ◆水中でのリラクゼーションや呼吸法、泳法の基礎に親しみ、水に慣れながら心身の緊張を和らげ、安全に活動する力を養う。	(知) 水中で力を抜いて浮くことができる。 (思) 水中での力の抜き方や呼吸法について知ることができる。 (主) 泳法を理解して泳ぐことができる。
	10前半	「武道」(柔道)	8	○受け身 ◆身体の使い方や姿勢に気を付けながら運動し、けがの予防につながる動きを身に付ける。	(知) 柔道の歴史や基本動作などについて知り、理解を深めることができる。 (思) 身体の使い方を考えることができる。 (主) いろいろな受け身を身に付けようとしている。

期	月	単元(題材)名	指導 時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点)
二 学 期	10 後 半	「武道」(柔道)	7	○寝技 ◆寝技の基本動作に親しみ、相手との関わりの中で体の使い方を工夫し、安全に動く力を養う。	(知)柔道の歴史や基本動作などについて知り、理解を深めることができる。 (思)身体の使い方を考えることができる。 (主)複数の受け身を身に付けようとしている。
	11	「ダンス」	6	○リズム体操 ◆音楽に合わせて体を動かす楽しさを感じ、リズム感や表現力を養う。	(知)身体の各部位を意識して曲げたり伸ばしたりすることができる。 (思)リズムを感じながら身体を動かすことができる。 (主)友達と一緒にダンスを踊ることができる。
	12	「ダンス」	6	○創作ダンス ◆自分のイメージや感情を動きで表現する楽しさを味わい、創造力や表現力を養う。	(知)身体の各部位を意識して曲げたり伸ばしたりすることができる。 (思)リズムを感じながら身体を動かすことができる。 (主)友達と一緒にダンスを踊ることができる。
三 学 期	1	「球技」(ハンドサッカー)	6	○ドリブル、パス ◆ドリブルやパスの基本技能に親しみ、ボール操作や仲間との連携を通して、運動の楽しさを味わうとともに協力する力を養う。	(知)ルールを理解して運動することができる。 (思)ドリブルやパスの特性を理解することができる。 (主)自己の課題を見つけて取り組むことができる。
	2	「球技」(ハンドサッカー)	8	○ミニゲーム ◆ゲームを通して、ドリブルやパスなどの技能を活用し、仲間と協力しながら状況に応じた判断や動きができる力を養う。	(知)試合の中でドリブル、パス、シュートなどを行うことができる。 (思)仲間や相手の動きに応じてプレーすることができる。 (主)仲間と協力しながら試合を行うことができる。
	3	「球技」(ハンドサッカー)	6	○シュートコンテスト ◆シュートの技能を高め、的やゴールをねらって力加減や方向を工夫しながら正確にシュートする力を養う。	(知)課題や時間を意識してシュートすることができる。 (思)自分に合致した課題を選択することができる。 (主)高度な課題へ挑戦することができる。
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> 手本を効果的に用いて、身体の動きのイメージをもちやすくする。 学習を繰り返し、見通しやイメージをもてるようにする。 学期や行事などで使用できる場所や用具を考慮する。 	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	保健	グループ名	C学習グループ	年間授業時数	38 単位時間
年間指導目標	(知)個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。				
	(思)健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。				
	(学)生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。				
	※ (知) 知識及び技能 (思) 思考力、判断力、表現力等 (学) 学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:松木克美				
使用教科書	現代高等保健体育 改訂版 (大修館)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点)
					(知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた	3	○健康について多様な考え方 ○健康の成り立ちとその要因 ◆さまざまな健康の考え方や健康を成り立たせている要因について例をあげて説明できる。 ○わが国における健康水準の向上 ○わが国における健康問題の変化 ◆わが国の健康水準の変化とその背景や現在の健康問題について例をあげて説明できる。	(知)我が国の死亡率, 受療率, 平均寿命, 健康寿命など各種の指標や疾病構造や健康水準, 及び疾病構造の変化について, 理解したことを言ったり書いたりしている。 (思)健康の考え方について, 健康に関わる原則や概念を基に整理したり, 個人及び社会生活と関連付けたりして, 自他や社会の課題を発見している。 (主)健康の考え方について, 課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
	5	生活習慣病の予防と回復 がんの原因と予防 がんの治療と回復	5	○生活習慣病とその種類 ○予防から回復まで ◆生活習慣病の種類と要因や生活習慣病の一次予防, 二次予防について例をあげて説明できる。 ○がんとその種類 ○がんの予防 ◆がんのおもな治療法や緩和ケアやがん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について説明できる。	(知)生活習慣病などの予防と回復には, 個人の取組とともに, 健康診断やがん検診の普及, 正しい情報の発信など社会的な対策が必要であることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている (思)生活習慣病などの予防と回復について, 健康に関わる原則や概念を基に整理したり, 個人及び社会生活と関連付けたりして, 自他や社会の課題を発見している。 (主)生活習慣病とその予防について, 課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
	6	運動と健康 食事と健康	4	○健康から見た運動の意義 ○健康に良い運動のしかた ◆健康と運動の関係や目的に応じた健康的な運動のしかたについて例をあげて説明できる。 ○健康的な食生活の意義 ○健康に良い食事の取り方 ◆食事と健康の関係や健康的な食事のとり方について説明できる。	(知)適切な運動, 食事, 休養及び睡眠など, 調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であることについて理解したことを言ったり書いたりしている。 (思)健康に関わる原則や概念を基に整理したり, 個人及び社会生活と関連付けたりして, 自他や社会の課題を発見している。 (主)生活習慣病とその予防について, 課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
	7	休養・睡眠と健康 喫煙と健康	2	○健康からみた休養の意義 ◆健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について説明できる。 ○喫煙の影響 ○喫煙の対策 ◆喫煙者やその周囲の人に起こる害について説明できる。	(知)正しい知識の普及, 健全な価値観の育成などの個人への働きかけ, 及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。 (思)喫煙, 飲酒, 薬物乱用の防止について, 健康に関わる原則や概念を基に整理したり, 個人及び社会生活と関連付けたりして, 自他や社会の課題を発見している。 (主)喫煙, 飲酒, 薬物乱用について, 課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
二学期	9	飲酒と健康 薬物乱用と健康	3	○飲酒の影響 ○飲酒への対策 ◆飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を説明できる。 ○薬物乱用の影響 ◆薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響について説明できる。	(知)薬物乱用を防止するには, 正しい知識の普及, 健全な価値観や規範意識の育成などの個人への働きかけ, 及び法的な規制や行政的な対応など社会環境への対策が必要であることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。 (思)喫煙, 飲酒, 薬物乱用の防止について, 我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり, 諸外国と比較したりして, 防止策を評価している。 (主)喫煙, 飲酒, 薬物乱用について, 課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
	10前半	精神疾患の特徴	2	○精神疾患の要因と種類 ○精神保健の今日的課題 ◆精神疾患の例をあげ, 発病の要因とおもな症状について説明できる。	(知)精神疾患は, 精神機能の基盤となる心理的, 生物的, または社会的な機能の障害などが原因となり, 認知, 情動, 行動などの不調により, 精神活動が不全になった状態であることについて, 理解したことを言ったり書いたりしている。 (思)精神疾患の予防と回復について, 健康に関わる原則や概念を基に整理したり, 個人及び社会生活と関連付けたりして, 自他や社会の課題を発見している。 (主)精神疾患の予防とその回復について, 課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	精神疾患の予防	3	○日常生活における精神疾患の予防 ○精神疾患の早期発見・早期治療 ◆精神疾患を予防する方法や早期発見のために必要なことについて説明できる。	(知) 精神疾患の予防と回復には、身体の健康と同じく、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた生活を実践すること、早期に心身の不調に気付くこと、心身に起こった反応については体ほぐしの運動などのリラクゼーションの方法でストレスを緩和することなどが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (思) 精神疾患の予防と回復について、習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。 (主) 精神疾患の予防とその回復について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
	11	精神疾患からの回復 現代の感染症	4	○専門家による支援と治療 ○社会環境の整備 ◆精神疾患の治療や適切な治療や回復のためには、どのような社会環境が必要か説明できる。 ○感染症とは ○様々な感染症 ◆感染症とは何かについて潜伏期間や感染力や新興感染症と再興感染症が流行する要因をそれぞれ説明できる。	(知) 人々が精神疾患について正しく理解するとともに、専門家への相談や早期の治療などを受けやすい社会環境を整えることが重要であること、偏見や差別の対象ではないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (思) 習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。 (主) 精神疾患や感染症の予防とその回復について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
	12	感染症の予防 性感染症 エイズとその予防	2	○感染症予防の3原則 ○現代の感染症対策 ◆感染症の予防対策について3原則から例をあげて説明できる。 ○性感染症・エイズとは ◆性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点について説明できる。	(知) 感染症のリスクを軽減し予防するには、衛生的な環境の整備や検疫、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともに、それらを前提とした個人の取組が必要であること、エイズ及び性感染症についても、その原因、及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について、理解したことを言ったり書いたりしている。 (思) 現代の感染症とその予防について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 (主) 現代の感染症とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
二 学 期	1	健康に関する意思決定・ 行動づくり 健康に関する環境づくり 事故の現状と発生要因	3	○意思決定・行動選択とそれに影響を与える要因 ◆意思決定・行動選択に影響を与える要因や健康に関する適切な意思決定・行動選択の際の工夫について例をあげて説明できる。 ○健康を保持増進するための環境 ○ヘルスプロモーションの考え方 ◆社会環境の健康への影響やヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴について説明できる。 ○事故とその被害 ◆事故の実態と被害の実態について説明できる。	(知) 健康を保持増進するための環境には、自然環境、及び政策や制度、地域活動などの様々な社会環境があることについてや、事故については、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していること、事故の発生には、周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (思) 生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方や安全な社会づくりについて、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 (主) 安全な社会づくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
	2	安全な社会の形成 交通における安全 応急手当の意義と その基本	4	○自他の安全を確保する行動 ◆安全のために必要な個人の行動について例をあげて説明できる。 ○交通事故防止のための取り組み ◆交通事故防止における個人の取り組みと交通環境の整備について例をあげて説明できる。 ○応急手当の意義 ◆応急手当の意義や傷病者を発見したときに、確認・観察するポイントをあげることができる。	(知) 法的な整備などの環境の整備、環境や状況に応じた適切な行動などの個人の取組、及び地域の連携などが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 (思) 習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価している。 (主) 安全な社会づくりや応急手当について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
	3	日常的な応急手当 心肺蘇生法	3	○けがに応じた応急手当 ○熱中症の応急手当 ◆日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法について説明できる。 ○心肺蘇生の意義と方法 ◆心肺蘇生の方法と手順について説明できる。	(知) 日常生活で起こる応急手当の方法や手順があることを、実習を通して理解し、応急手当ができるようにする。 (思) 応急手当について、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 (主) 応急手当について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> 健康や性、心身の発達に関する内容については、安心して学習できるように支援する。 発問や説明は簡潔かつ具体的に行い、生徒の理解度を確認しながら段階的に学習を進める。 学習内容を生活経験や実際の健康課題と関連付け、主体的に考えられるようにする。 	

令和 8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	美術 I	グループ名	C学習グループ	年間授業時数	71 単位時間
年間指導目標	(知)対象や事象を捉える造形的な視点について理解し、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。				
	(思)主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。				
	(学)主体的に創造的な諸活動に取り組み、美術文化に親しむ態度を養う。				
	※ (知) 知識及び技能 (思) 思考力、判断力、表現力等 (学) 学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:後藤理沙				
使用教科書	日本文教出版「高校美術」				

期	月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点）		
					(知) 知識・技能	(思) 思考力・判断力・表現力	(主) 主体的に学習に取り組む態度
一 学 期	4	【ガイダンス】 色の特徴を知ろう	6	○色の性質、効果、配色について知る ○日常生活の中にある、色の効果に気付く ◆伝えたいイメージに合う、配色を考える。	(知)色の特徴について、理解している。 (思)色の特徴が生かされている場面に気付いたり、色の効果を考えた配色ができる。 (主)進んで色についての知識を身につけようとしている。		
	5	【絵画】 心に残る学校の風景	10	○描きたい学校の風景を決める ○風景画の制作 ○鑑賞 ◆色の重なるの効果を意識しながら、学校で心に残る風景を描く。	(知)様々な水彩画の技法について知り、工夫して表す。 (思)意図に応じて色や方法を選んで表す。 (主)水彩画の特性を生かし、見方や感じ方を深めようとしている。		
	6	【映像メディア表現】 視点を変えて	9	○身近な素材を使った写真作品や技法を調べる ○身近なものの中から写真を撮影 ○鑑賞 ◆見る角度や距離、視点を変えるなどして主題を生み出し、写真で表現する。	(知)デジタル機器を使った写真撮影の方法を知り、工夫して表す。 (思)身近なもの、動きに注目したり、距離感を意識したりして撮影する。 (主)思いに合った写真が撮れるよう、試行錯誤している。		
	7						
二 学 期	9	【デザイン】 生活で役立つやきものを作ろう	12	○生活で使う機能的なやきものを調べる ○生活で使えるやきものを制作 ○プレゼンテーション ◆陶土を使った作品や技法の基礎を学び、生活で使えるものを制作する。	(知)陶土の特性や技法の基礎を知り、陶土を使った生活で役立つデザインを工夫して表す。 (思)作りたい形や色、模様に応じた表現方法を工夫する。 (主)生活で使う機能的なやきものについて調べ、自己の価値観をもって制作に生かそうとしている。		
	10						

期	月	単元（題材）名	指導 時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	11	【デザイン】 文字で思いを伝える	12	○日本や諸外国のタイポグラフィを調べる ○タイポグラフィの制作・バッグに印刷 ○鑑賞 ◆バッグの模様にしたがう、タイポグラフィをデザインする。	(知) 日本や諸外国のタイポグラフィを鑑賞し、表現の工夫の関わりを感じ取る。 (思) 使う場面等から、バッグのマークの主題を発想する。 (主) 文様に興味をもち、主体的に活動に取り組む。
	12				
二 学 期	1	【絵画】 過去、現在、未来へ続く 絵巻物	16	○水墨画や絵巻物の作品を調べる ○テーマを決めて制作 ○鑑賞 ◆墨の特性を生かし、長い画面でストーリー性のある絵を描く。	(知) 水墨画や絵巻物の作品を鑑賞し、表現技法について知り、工夫して表す。 (思) 墨でできる表現を生かして、絵巻物の主題を発想する。自己の価値観をもって作品を鑑賞し、作品の見方や感じ方を深めたりする。 (主) 墨の表現に興味をもち、積極的に表現を試す。
	2				
	3				
そ の 他	通年			・年間を通して、美術史について学ぶ。作品制作に関係する、作家の作品についても紹介する。	
指導の工夫 学習時の配慮事項等				・扱いやすい材料や道具を用意する。	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	英語コミュニケーション I	グループ名	C学習グループ	年間授業時数	105 単位時間
年間指導目標	(知)「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4技能を伸ばし、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。 (思)世界の言葉、文化、民族を知り、互いを認め合う大切さを考える。 (学)英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を育てる。 ※ (知) 知識及び技能 (思) 思考力、判断力、表現力等 (学) 学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:森本 健治				
使用教科書	VISTA English Communication I (三省堂)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点) (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一 学 期	4	Get Ready1.2.3.4	9	○アルファベット、単語の書き方 ◆英文法の基礎中学までに学習した文法(主語、be動詞、一般動詞、目的語、形容詞、副詞、前置詞、冠詞)について、イラストなどを参考にして、理解することができる。	(知)文字、単語の書き方、会話、文法の基礎を知る (思)基礎的な表現を使い、英語で伝える。 (主)自分の気持ちを英語で伝えようとする。
	5	Lesson1 「Colors of Spring」 Lesson2「Dick Bruna」	10	○春のイメージカラーの国による違いを知る。 ○「ミッフィー」の生みの親、ディックブルーナについて知る。◆春についての対話を読み、概要や要点を把握することができる。	(知)be動詞、一般動詞について知る。 (思)色と文化との結びつき、ディックブルーナの活動について考える。 (主)動詞を適切に使い、身近な様子を相手に伝えようとする。
	6	Lesson3 「Interesting Sports」	10	○スラックラインやバブルサッカーといったユニークな競技を知る。 ◆おもしろいスポーツについての対話を読み、概要や要点を把握することができる。	(知)現在進行形、過去進行形について知る。 (思)スポーツの面白さを見つけて、伝える。 (主)進行形を用いて、状況を適切に表現しようとする。
	7	Lesson4「Pictograms」	9	○オリンピックなどに見られるピクトグラムについて学ぶ。 ◆ピクトグラムの役割について読み、概要や要点を把握することができる。	(知)助動詞、動名詞について適切な使い方を知る。 (思)国際社会におけるピクトグラムの役割について考える。 (主)助動詞の意味の違いに気を付けて、表現しようとする。
二 学 期	9	Lesson5 「We Are Part of Nature」	10	○動物写真家の岩合光昭さんの写真の秘訣や自然への思いを学ぶ。 ◆岩合光昭さんへのインタビューを読み、概要や要点を把握することができる。	(知)不定詞の3つの用法について知る。 (思)自然環境の大切さについて考える。 (主)不定詞の意味の使い分けに注意して、適切に表現しようとする。
	10 前 半	Lesson6 「Machu Pichu」	5	○世界遺産「マチュピチュ」の魅力と不思議を知る。 ◆マチュ・ピチュについての対話を読み、概要や要点を把握することができる。	(知)現在完了形が表す時制を知る。 (思)人類の遺産を継承する大切さを考える。 (主)現在・過去・現在完了を使い分け、適切に表現しようとする。

期	月	単元(題材)名	指導 時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点)
一 学 期	10 後 半	Lesson6 「Machu Pichu」	5	○世界遺産「マチュピチュ」の魅力と不思議を知る。 ◆マチュ・ピチュについての対話を読み、概要や要点を把握することができる。	(知) 現在完了形が表す時制を知る。 (思) 人類の遺産を継承する大切さを考える。 (主) 現在・過去・現在完了を使い分け、適切に表現しようとする。
	11	Lesson7 「Artificial Intelligence」	10	○AI(人工知能)にできることとできないことを、現在の技術から学ぶ。 ◆AIについての発表を読み、概要や要点を把握することができる。	(知) 受け身の文での、動詞の変化を知る。 (思) 人とAIが共存する未来について考える。 (主) 能動態と受動態の違いを意識して、適切に表現しようとする。
	12	Lesson8 「Is There a Santa Claus?」	9	○「サンタクロースは本当にいるのか?」という子供からの質問に関連して、クリスマス文化について考える。 ◆サンタクロースについての発表を読み、概要や要点を把握することができる。	(知) 関係代名詞の適切な使い方を知る。 (思) 世界のクリスマス文化を学び、人々の思いを考える。 (主) 関係代名詞を用いて、説明したいことを適切に表現しようとする。
二 学 期	1	Lesson9 「Kids' Guernica」	9	○ピカソの絵画「ゲルニカ」と「キッズゲルニカプロジェクト」について知る。 ◆ゲルニカについての発表を読み、概要や要点を把握することができる。	(知) 名詞を修飾する分詞、関係副詞を知る。 (思) 芸術を通じて、平和を祈る活動について考える。 (主) 関係副詞を用いて、自分の言いたいことを英語で伝えようとする。
	2	Lesson10 「Ethical Fashion」	10	○エシカルファッションとエシカルな考え方について学ぶ。 ◆エシカルファッションについての対話を読み、概要や要点を把握することができる。	(知) 比較の文での、対比の仕方について知る。 (思) 世界中の人の暮らしの向上について考える。 (主) 比較の表現を用いて、様々な物を比べ表現しようとする。
	3	ENJOY READING Time Noodles	9	○古典落語の一つ、「時そば」について読み、考えを深めることができる。 ◆物語を読み、概要や要点を把握することができる。	(知) これまでの学習に留意しながら、内容を読み取る技術を身に付ける。 (思) 物語の理解を深めるために、内容の要点を把握する。 (主) 物語の内容を主体的に読み取ろうとする。
そ の 他	通 年	Assistant Language Teacherとの授業		◆ALTと英語でコミュニケーションをとったり、英語活動を行ったりすることで、英語のリスニング、スピーキングの技術を高める。 ◆外国の人と触れ合うことで、文化や思考などの異文化理解を進める。	
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> ・クラスルームイングリッシュを用いて、英語で会話をすることに慣れる。 ・学習した英文法を用いて、自分の伝えたいことを英語で言ったり書いたりする練習を繰り返す。 ・ALTとの授業では、文法や語法的な間違いを気にせず、英語で伝える楽しさをもてるように支援する。 	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	家庭基礎	グループ名	C学習グループ	年間授業時数	72 単位時間1
年間指導目標	(知)家族・家庭、福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を営むために必要な事柄を理解し、基礎的な技能を身に付ける。 (思)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (学)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。 ※ (知) 知識及び技能 (思) 思考力、判断力、表現力等 (学) 学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:上野 はつえ				
使用教科書	高等学校家庭基礎 持続可能な未来をつくる(第一学習社)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点)
					(知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一 学 期	4	家庭科の学び方 生涯を見通す 人生を展望する 家族・家庭を見つめる	6	○ガイダンス・ホームプロジェクトについて ○生涯の生活設計 家族・家庭・世帯 ◆自立について生涯の視点から考える	(知)自己と他者、社会から様々な生き方があることを理解している。 (思)生涯を見通した生活について考え、将来の家庭生活及び職業生活について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 (学)自分や家庭、地域生活の充実を図るために実践しようとしている。
	5	子どもと共に育つ これからの保育環境	6	○子どもの発達・生活 ○子育て支援と福祉 ◆人として命をつなぐことについて考える ◆乳幼児の心身の発達について理解する	(知)子どもの身体の成長について、大まかな流れと特徴を理解する。 (思)男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 (学)子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
	6	超高齢社会を共に生きる これからの超高齢社会	10	○高齢期の生活 ○高齢社会を支える仕組み ◆高齢期の身体の特徴や、高齢社会を支える仕組みについて理解し、自分事として考える	(知)高齢社会の現状を理解するとともに、高齢者への理解を深める。福祉の考え方を理解する。 (思)高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見出して論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 (学)高齢期の生活と福祉について、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
	7	ともに生きる 私たちの生活と福祉 ホームプロジェクト	4	○社会保障制度と社会的連帯 ○自分らしい生き方と共生社会 ○ホームプロジェクトの計画・実践 ◆社会保障制度、共生社会について考える ◆自分の生活をよりよくする方法を考える	(知)生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 (思)自身の生活の課題を見つける。具体的な解決策を考える。 (学)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
二 学 期	9	食の課題について考える	6	○私たちと食事・食生活の変化・栄養と食品 ◆食事と健康の関わりについて理解し、食生活の課題について考える	(知)健康な生活を送るうえで必要な栄養素とその主な働きについて理解する。 (思)食品表示、栄養表示を通して内容を読みとり、身体状況に応じた食品を選択できるようにする。 (学)自分や家族を取り巻く食の課題について考え、よりよい食生活を送るために、実践しようとしている。
	10 前半	食生活の選択と安全 生涯の健康を見通した食事計画	4	○食品の選択と保存、安全と衛生 ○何をどれだけ食べればよいか ○献立作成の手順 ◆主体的に食品を選択する力を身につける ◆自分や家族の食事計画を考える	(知)健康の維持・増進、体の成長のために必要な食事摂取基準について理解する。・健康や環境に配慮した食生活について理解している。食品衛生について理解している。 (思)食の安全について問題を見出して課題を設定し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 (学)食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

期	月	単元(題材)名	指導 時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点)
二 学 期	10 後 半	調理の基礎	4	○調理の基本 ○調理の流れ、包丁の使い方、調味 ○調理法、配膳、マナー ◆基本的な調理の技能について理解し、実践する力を身につける	(知)食品の選択・計量・器具の扱い、および包丁の使い方、野菜の切り方など調理の基本技術を習得する。・目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。 (思)食品の調理上の性質について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 (学)食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
	11	食生活の文化と知恵 これからの食生活	4	○食生活の文化 ○持続可能な食生活 ◆持続可能な食生活について、自分にできることを考え、実践する力を身につける	(知)日本料理・西洋料理・中国料理のそれぞれのマナーを心得て食事ができるようにする。 (思)食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 (学)食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
	12	被服の役割を考える 被服を入手する 衣生活の文化と知恵 これからの衣生活	8	○衣服機能・被服材料 ○洗濯方法と表示・被服の手入れと保管 ○持続可能な衣生活 ◆衣服の機能や材料について理解し、主体的に衣服を選ぶ力を身につける ◆持続可能な衣生活について考える	(知)被服材料、被服構成、被服衛生について理解している。 (思)被服の機能性や快適性について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。や成分を知り、環境に配慮した洗濯の工夫について考える。 (学)衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
三 学 期	1	住生活の変遷と住居の機能 安全で快適な住生活の計画 住生活の文化と知恵	6	○住文化の継承と創造 ○住生活の計画と選択 ○長く住み続けるために ◆住文化について理解し、将来の自分の住生活について考える	(知)ライフステージに応じた住生活の特徴について理解している。防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解している。適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 (思)住居と地域社会との関わりについて問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 (学)住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、に、自分や家庭生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
	2	これからの住生活 情報の収集・比較と意思 決定消費者の権利と責任	6	○持続可能な住まい ◆持続可能な住まい方について考える ○契約と意思決定・多様化する支払方法 ○消費者問題 ◆契約と意思決定、支払方法について理解し、消費者問題を自分事としてとらえることができる	(知)消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費行動における意思決定について理解している。消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう契約の重要性について理解している。消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費者保護の仕組みについて理解している。 (思)自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 (学)消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
	3	これからの経済生活 持続可能な社会を目指して 生活をデザインする	8	○消費生活と地球環境 ○消費者市民社会を目指して ◆消費生活と地球環境の課題について理解し、自分にできる行動を考え、実践する力を身につける	(知)生活と環境との関わり、持続可能な消費、持続可能な社会へ参画することの意義について理解している。 (思)持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 (学)持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス、学びの地図を呈示する。 ・生徒が考えた献立や調理方法を実践するなど、実体験に基づいて気付いたり考えたりできるようにする。 ・動画などの教材を用意し、実際の場面を想像できるように配慮する。 ・生徒の実態に合わせて、使いやすい道具などを把握し、準備する。 	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学部	高等部	学年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	情報 I	グループ名	C学習グループ	年間授業時数	72 単位時間
年間指導目標	(知)効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得する。				
	(思)様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題解決のため情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。				
担当教職員	教員:横枕雄一郎				
	使用教科書 なし				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容 ◆ねらい	単元の目標(評価の観点) (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度	
一学期	4	情報社会の問題解決	22	○情報とメディア ◆情報とは何か、情報の信ぴょう性とは何かを理解し、クロスチェックの重要性を知る。問題解決のプロセスを理解するとともに、情報や情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を学ぶ。 ○情報社会における法とセキュリティ ◆情報に関する法規や制度について知り、それらの必要性について考える。個人情報保護の重要性、肖像権、プライバシー権、著作権などを正しく理解し、ユーザ認証、アクセス制御など、情報セキュリティを高める技術やその重要性について考える。 ○情報技術が社会に及ぼす影響 ◆発展する情報技術と情報技術がもたらす社会や生活の変化について知る。インターネット上のさまざまなトラブルを学び、情報技術の適切な活用について理解する。	(知)情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付ける。情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解することができる。情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解することができる。 (思)目的や状況に応じて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考えることができる。情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルについて、それらの背景を科学的に捉え、考察できる。情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察できる。 (主)情報社会における問題の発見・解決に、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。また、自己調整しながら、解決する過程や解決案をみずから評価し改善しようとしている。情報モラルに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。	
	5					
	6					
二学期	7	コミュニケーションと情報デザイン	15	○情報のデジタル表現 ◆アナログとデジタルの違い、デジタル情報の特徴やメリットを知る。ビットの概念を知り、2進法や16進法などを用いた数のデジタル表現、文字のデジタル表現を理解する。音、画像、動画のデジタル化の原理を理解し、デジタル情報ならではのデータ圧縮の原理と具体例について考える。 ○コミュニケーション手段の発展と特徴 ◆技術的な進歩を学び、コミュニケーション手段の発展について知る。情報発信するときのメディアの性質と特徴を理解し、目的や状況に応じて適切なメディアの選択を考える。 ○情報デザイン ◆情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解するとともに、情報を抽象化・構造化・可視化する方法や表現を工夫する技能を身に付ける。ユーザビリティやアクセシビリティ、ユニバーサルデザイン等について知る。	(知)メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について、その変遷も踏まえて科学的に理解することができる。情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解する。効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し表現する技能を身に付ける。 (思)メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え、それらを目的や状況に応じて適切に選択する。コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考える。効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現し、評価し改善することができる。 (主)情報と情報技術を活用して効果的なコミュニケーションを行おうとしている。情報デザインを効果的に活用し、情報社会に主体的に参画しようとしている。	
	9					
	10前半					

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容 ◆ねらい	単元の目標(評価の観点)	
二学期	10後半	コンピュータとプログラミング	15	○コンピュータのしくみ ◆コンピュータの基本的なしくみとはたらき、CPU、メモリ等の基礎について理解する。コンピュータの内部における数の表現方法と計算に関する限界について知る。コンピュータで扱われる情報の特徴やコンピュータの能力との関係について考える。 ○プログラミング ◆問題の解法をアルゴリズムを用いて表現する方法を身に付ける。プログラミングの基本的な考え方やコンピュータを活用する方法を理解する。プログラミングの技能を身に付け、プログラムを評価し改善する活動を考える。 ○モデル化やシミュレーション ◆モデル化やシミュレーションの考え方や手順を知り、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法を理解する。目的に応じたモデル化やシミュレーションを行い、その結果から問題の解決方法を考える。	(知)コンピュータや外部装置の仕組みや特徴、コンピュータでの情報の内部表現と計算に関する限界について理解する。アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について、技能を身に付ける。社会や自然などにおける事象をモデル化する方法と、モデルを評価し改善する方法について理解する。 (思)コンピュータで扱われる情報の特徴とコンピュータの能力との関係について考察する。目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングによりコンピュータや情報通信ネットワークを活用する。目的に応じたモデル化やシミュレーションを適切に行うとともに、その結果を踏まえて問題の適切な解決方法を考える。 (主)問題の発見・解決にコンピュータを積極的に活用しようとしている。身近な問題を解決するプログラムやシミュレーションの結果をもとに、試行錯誤しながら評価し改善しようとする。	
	11					
	12					

三 学 期	1	情報通信ネットワークとデータの活用	20	○ネットワークのしくみ ◆コンピュータでの通信の基本的な方式やプロトコルなど、インターネットでの通信の原理について知る。パケット通信の原理とメリットについて理解する。情報通信ネットワークのしくみや情報セキュリティを確保するための方法について理解する。目的や状況に応じて、情報セキュリティを確保する方法について考える。	(知) 情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解する。データを蓄積、管理、提供する方法、情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供する仕組みと特徴について理解する。データを表現、蓄積するための表し方と、データを収集、整理、分析する方法について理解し技能を身に付ける。 (思) 目的や状況に応じて、情報通信ネットワークにおける必要な構成要素を選択するとともに、情報セキュリティを確保する方法について考える。情報システムが提供するサービスの効果的な活用について考える。データの収集、整理、分析及び結果の表現の方法を適切に選択し、実行し、評価し改善しようとする。 (主) 問題の発見・解決にコンピュータを積極的に活用しようとしている。問題解決の結果を振り返り改善しようとしている。身近な問題を解決するプログラムやシミュレーションの結果をもとに、試行錯誤しながら評価し改善しようとするなどを通して、情報社会に主体的に参画しようとしている。
	2			○データベース ◆データベースの概念やデータベース管理システムの機能について知る。ネットワークを介して情報システムがサービスを提供しているしくみや特徴を理解し、それらが社会生活に果たす役割と影響を理解する。情報システムが提供しているサービスを効果的に活用することについて考える。	
	3			○データの分析 ◆データを分析する際に必要となるデータの形式、データの収集方法、データの種類について理解し、それらを扱いデータを分析する技能を身に付ける。数学的なデータ分析の基礎を理解し、表計算ソフトウェアなどを使って簡単なデータ処理や分析を行い結果の表現方法を考えさせるとともに、それらを評価し改善する活動を行う。	
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> ・個々の実態に応じて、教材等の提示位置を工夫する。 ・ICT機器を操作しやすいよう、机、書見台等を一人一人に合わせて調整する。 	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	産業社会と人間	グループ名	C学習グループ	年間授業時数	40 単位時間
年間指導目標	(知)社会生活に必要な力について理解する。 (思)心身ともに豊かな社会生活について考えることができる。 (学)自己を認識し、将来の自分や社会について考えようとする態度を養う。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:清宮 衛介、上野 はつえ				
使用教科書	なし				

期	月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点） （知）知識・技能 （思）思考力・判断力・表現力 （主）主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	オリエンテーション 自己理解 自分の将来の生き方や進路	2	○キャリアガイダンス ◆社会人としての基本的な心構えや学校生活での目標設定について理解する。 ○自分の生活を見直そう ◆自分の生活習慣や時間の使い方を振り返り、改善点を見つける。 ○ライフプラン(卒業後の自分)設計 ◆将来の生活や進路について具体的な目標を立て、計画を作成する。	(知)就業体験の目的や学習内容の理解を深め、勤労観や職業観を養う。 (思)進路実現や社会参加に向けて、キャリアプランニング能力を高めることができる。 (主)自分の課題や目標について具体的に考え、自己理解を深めようとする態度を養う。
	5	自己理解 自分の将来の生き方や進路	4		
	6	自己理解 自分の将来の生き方や進路	4		
	7	自己理解 自分の将来の生き方や進路	2		
二学期	9	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて	4	○就労体験ガイダンス ◆就業体験の意義と目的を理解し、準備を進める。 ○社会でのマナー(身だしなみなど) ◆社会生活に必要な身だしなみやマナーを身に付ける。 ○社会との関わりについて ◆地域社会や職場での人間関係の築き方を学ぶ。	(知)就業体験の意義を理解し、社会生活に必要なマナーや身だしなみの知識を身に付ける。 (思)職場や地域社会での人間関係の築き方を考え、適切なコミュニケーション方法を判断できる。 (主)就業体験に向けて準備を進め、社会参加への意欲を高めようとする態度を養う。
	10前半	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて	2		

期	月	単元(題材)名	指導 時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点)
一 学 期	10 後 半	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて	3	○社会でのマナー(身だしなみなど) ◆社会人として求められる身だしなみや礼儀作法を実践する。 ○社会との関わりについて ◆社会参加に向けて、地域との関わり方を考える。	(知)就業体験の意義を理解し、社会生活に必要なマナーや身だしなみの知識を身に付ける。 (思)職場や地域社会での人間関係の築き方を考え、適切なコミュニケーション方法を判断できる。 (主)就業体験に向けて準備を進め、社会参加への意欲を高めようとする態度を養う。
	11	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて	4		
	12	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて	3		
二 学 期	1	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて	3	○進路講話会 ◆先輩や社会人の話を聞き、進路選択の参考にする。 ○社会でのマナー(身だしなみなど) ◆卒業後の生活を見据え、マナーを定着させる。 ○社会との関わりについて ◆社会の一員としての自覚を持ち、責任ある行動を考える。 ○1年間を振り返って ◆1年間の学習を振り返り、成長を確認し、今後の課題を明確にする。	(知)進路選択に必要な情報を収集し、卒業後の生活に必要な知識や技能を身に付ける。 (思)1年間の学習を振り返り、自己の成長と課題を分析し、今後の進路実現に向けた計画を立てることができる。 (主)社会の一員としての自覚を持ち、主体的に社会参加しようとする態度を養う。
	2	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて	4		
	3	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて 次年度に向けて	2		
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめたり、振り返ったりしやすいように、ワークシートを準備する。 ・自分のことを客観的に理解できるように、グループ内でも評価をし合う。 ・ロールプレイ等を行い、体験的に学習できるようにする。 ・自分の学んだことを発表する機会を設ける。 	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	総合的な探究の時間	グループ名	C学習グループ	年間授業時数	38 単位時間
年間指導目標	(知)各教科等で身に付けた知識や技能を活用したり実践したりすることができる。 (思)集団の中で自分の役割を意識し、自分の考えや意見をまとめ、他者に的確に伝えることができる。 (学)探究活動に主体的、協働的に取り組む態度を養い、自己の生き方について考えを深める。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:細貝正輝、上野はつえ				
使用教科書	なし				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点) (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	1学期オリエンテーション 話し合い活動	3	○学習及び行事予定の確認 ◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。	(知)各教科等で身に付けた知識や技能の活用を図る。 (思)集団の中で自分の役割を意識し、自分の考えや意見をまとめ、他者に的確に伝える力を高める。 (主)探究活動に主体的、協働的に取り組む態度を養い、自己の生き方を考えようとする。
	5	話し合い活動 校外学習事前学習	4	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。 ○学部行事の企画、運営を行う。 ○校外学習での行程を調べ、適切に計画する。	
	6	話し合い活動 校外学習事後学習	4	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。 ○校外学習での行程を調べ、適切に計画し、振り返りをする。	
	7	話し合い活動 1学期のまとめ	3	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。 ○学部行事の企画、運営を行う。 ◆目標と現在を対比し、自己の課題に気付く。	
二学期	9	2学期オリエンテーション 話し合い活動	4	○学習及び行事予定の確認 ◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。	
	10 前半	話し合い活動	2	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。	

期	月	単元（題材）名	指導 時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点）
二 学 期	10 後 半	話し合い活動	2	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。	(知)各教科等で身に付けた知識や技能の活用を図る。 (思)集団の中で自分の役割を意識し、自分の考えや意見をまとめ、他者に的確に伝える力を高める。 (主)探究活動に主体的、協働的に取り組む態度を養い、自己の生き方を考えようとする。
	11	話し合い活動	4	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。	
	12	話し合い活動 2学期のまとめ	4	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。 ◆目標と現在を対比し、自己の課題に気付く。	
三 学 期	1	話し合い活動	3	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。	
	2	話し合い活動	3	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。	
	3	話し合い活動 1年間のまとめ	3	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。 ◆目標と現在を対比し、自己の課題に気付く。	
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用しながら、学びの過程を自ら決定し、思考のスキルを身に付けられるようにする。 ・活動内容や役割分担を明確にする。 ・自分の意見や考えを整理して、集団の中で伝えられるよう、発表の機会を多く設ける。 	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	1学年	教育課程名	
教科等名	特別活動	グループ名		年間授業時数	37 単位時間
年間指導目標	(知)友達や教職員との関わりの中で、コミュニケーションの基本を身に付ける。				
	(思)仲間と協力しながら、自分の役割を考えて行動する。				
	(学)活動に積極的に参加し、最後までやり遂げる力を身に付ける。				
	※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教諭:熊谷賢二 後藤理沙 細貝正輝 津田直子 学校介護職員:井上智佳子 中山潤				
使用教科書	なし				

期	月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点）
					(知) 知識・技能 (思) 思考力・判断力・表現力 (主) 主体的に学習に取り組む態度
一 学 期	4	高等部のスタート	3	1年生の集団紹介、1年間の行事紹介、係活動決め等 ◆共に学ぶ仲間や1年間の活動を知り見通しをもつ。	(知)新しい教職員や友達の名前を覚える。 (思)自己紹介で自分を表現する。 (主)新しい教職員や友達に興味をもち、進んで関わる。
	5	仲間と一緒に活動しよう	3	○レクリエーション活動(個人戦) ◆友達と一緒に積極的に活動に取り組む。	(知)レクリエーションの内容を理解する。 (思)友達が頑張っている姿を見て、応援をする。 (主)レクリエーション活動に積極的に参加する。
	6	仲間と協力して活動しよう	3	○レクリエーション活動(チーム対抗戦) ◆友達と協力して活動することができる。	(知)チームでの活動を理解する。 (思)役割分担や作戦について話し合い、決定する。 (主)仲間と協力して活動する喜びを感じる。
	7	移動教室に向けて	3	○移動教室に向けた準備 ◆宿泊先や見学先、日程を知り、自分に合った係を選ぶことができる。	(知)宿泊先や見学先、行程を知る。 (思)自分に合った役割を考え、係の仕事を選ぶ。 (主)移動教室に興味をもち、意欲的に準備に取り組む。
二 学 期	9	移動教室を振り返ろう	3	○移動教室の振り返り ◆移動教室での活動を思い出しながら、ポスターを制作し、楽しかったことや頑張ったことを発表することができる。	(知)自分の行った活動を思い出すことができる。 (思)楽しかったことや頑張ったことを発表する。 (主)興味をもってポスターを制作したり、発表したりする。
	10 前半	仲間と一緒に活動しよう	3	○レクリエーション活動 ◆友達とのコミュニケーション方法を学び、協力して活動することができる。	(知)友達と関わるためのコミュニケーション方法を学ぶ。 (思)自分の役割を考え、友達と協力して活動する。 (主)友達と一緒に活動することを楽しむ。

期	月	単元（題材）名	指導 時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点）
二 学 期	10 後 半	仲間と一緒に活動しよう	7	○レクリエーション活動 ◆友達とのコミュニケーション方法を学び、協力して活動することができる。	(知) 友達と関わるためのコミュニケーション方法を学ぶ。 (思) 自分の役割を考え、友達と協力して活動する。 (主) 友達と一緒に活動することを楽しむ。
	11				
	12	学期のまとめ	3	○2学期の振り返り ◆2学期の活動を思い出し、頑張ったことを発表することができる。	(知) 2学期に行った活動を思い出す。 (思) シートにまとめ、頑張ったこと等を発表する。 (主) 自分だけでなく友達が頑張ったことにも興味をもつ。
三 学 期	1	仲間と一緒に活動しよう	6	○レクリエーション活動 ◆友達とのコミュニケーション方法を学び、協力して活動することができる。	(知) 友達と関わるためのコミュニケーション方法を学ぶ。 (思) 自分の役割を考え、友達と協力して活動する。 (主) 友達と一緒に活動することを楽しむ。
	2				
	3	1年間のまとめ	4	○一年間の振り返り ◆一年間の活動を思い出し、頑張ったことを発表することができる。次年度への期待感を高めていく。	(知) 一年間の活動を思い出す。 (思) シートにまとめ、頑張ったこと等を発表する。 (主) 自分だけでなく友達が頑張ったことにも興味をもつ。
指導の工夫 学習時の配慮事項等			<ul style="list-style-type: none"> ・学年の友達や教職員を意識できるように、適宜、集団での活動を設定する。 ・事前学習や振り返り、まとめの際は、写真等を使い、視覚化する。 ・まとめや振り返りの際には、活動をまとめたポスターや振り返りシートを基に、一人一人発表する場面を設定する。 		

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	1学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	自立活動	グループ名	C学習グループ	年間授業時数	70 単位時間
年間指導目標	(知)自分の身体の状態を理解し、必要な知識を身に付ける。				
	(思)自分に必要な手立てを相談し、考え実行することができる。				
	(学)自らの障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服ができる。				
	※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:富沢聖子、上野はつえ、熊谷賢二、福永映子、藤原千嘉				
使用教科書	なし				

期	月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点）
					(知) 知識・技能 (思) 思考力・判断力・表現力 (主) 主体的に学習に取り組む態度
一 学 期	4	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション	30	○身体の取り組み ストレッチ、ブリッジ、寝返り、よつばい、膝立ち、立ち直り、立ち上がり、立位、歩行 ◆誘導されたように筋緊張を緩める。 ◆誘導された感覚を感じ取りながら筋を伸ばす。 ◆誘導されたように仰向けでおしりをあげる。 ◆誘導されたように座位を行う。 ◆足底をつけて立ち上がる。 ◆片下肢へ重心を移しながら歩行を行う。 ○コミュニケーションの取り組み ◆意思伝達手段を選択し、実践する。 ◆作業学習 ◆調べ学習 ◆話し合い活動	(知) 自分の身体の状態に合った取り組み等を理解し、実践することができる。 (思) 自分の障害の状態における、必要な支援や配慮を理解し、発信することができる。 (主) 自らの障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとしている。
	5				
	6				
	7				
二 学 期	9	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション	13	○身体の取り組み ストレッチ、ブリッジ、寝返り、よつばい、膝立ち、立ち直り、立ち上がり、立位、歩行 ◆誘導されたように筋緊張を緩める。 ◆誘導された感覚を感じ取りながら筋を伸ばす。 ◆誘導されたように仰向けでおしりをあげる。 ◆誘導されたように座位を行う。 ◆足底をつけて立ち上がる。 ◆片下肢へ重心を移しながら歩行を行う。	
	10 前半				

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
二 学 期	10 後 半	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション	13	○身体の取り組み ストレッチ、ブリッジ、寝返り、よつばい、膝立ち、立ち直り、立ち上がり、立位、歩行 ◆誘導されたように筋緊張を緩める。 ◆誘導された感覚を感じ取りながら筋を伸ばす。 ◆誘導されたように仰向けでおしりをあげる。 ◆誘導されたように座位を行う。 ◆足底をつけて立ち上がる。 ◆片下肢へ重心を移しながら歩行を行う。 ○コミュニケーションの取り組み ◆意思伝達手段を選択し、実践する。 ◆作業学習 ◆調べ学習 ◆話し合い活動	(知) 自分の身体の状態に合った取り組み等を理解し、実践することができる。 (思) 自分の障害の状態における、必要な支援や配慮を理解し、発信することができる。 (主) 自らの障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとしている。
	11				
	12				
三 学 期	1	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション	14	○身体の取り組み ストレッチ、ブリッジ、寝返り、よつばい、膝立ち、立ち直り、立ち上がり、立位、歩行 ◆誘導されたように筋緊張を緩める。 ◆誘導された感覚を感じ取りながら筋を伸ばす。 ◆誘導されたように仰向けでおしりをあげる。 ◆誘導されたように座位を行う。 ◆足底をつけて立ち上がる。 ◆片下肢へ重心を移しながら歩行を行う。 ○コミュニケーションの取り組み ◆意思伝達手段を選択し、実践する。 ◆作業学習 ◆調べ学習 ◆話し合い活動	
	2				
	3				
指導の工夫 学習時の配慮事項等				・学校医（整形外科）、外部専門家と連携を図りながら継続的に取り組めるようにする。 ・鏡を活用し、姿勢を確認できるようにする。 ・生徒の興味・関心や身近な学校生活における話し合いのテーマ設定をする。	